

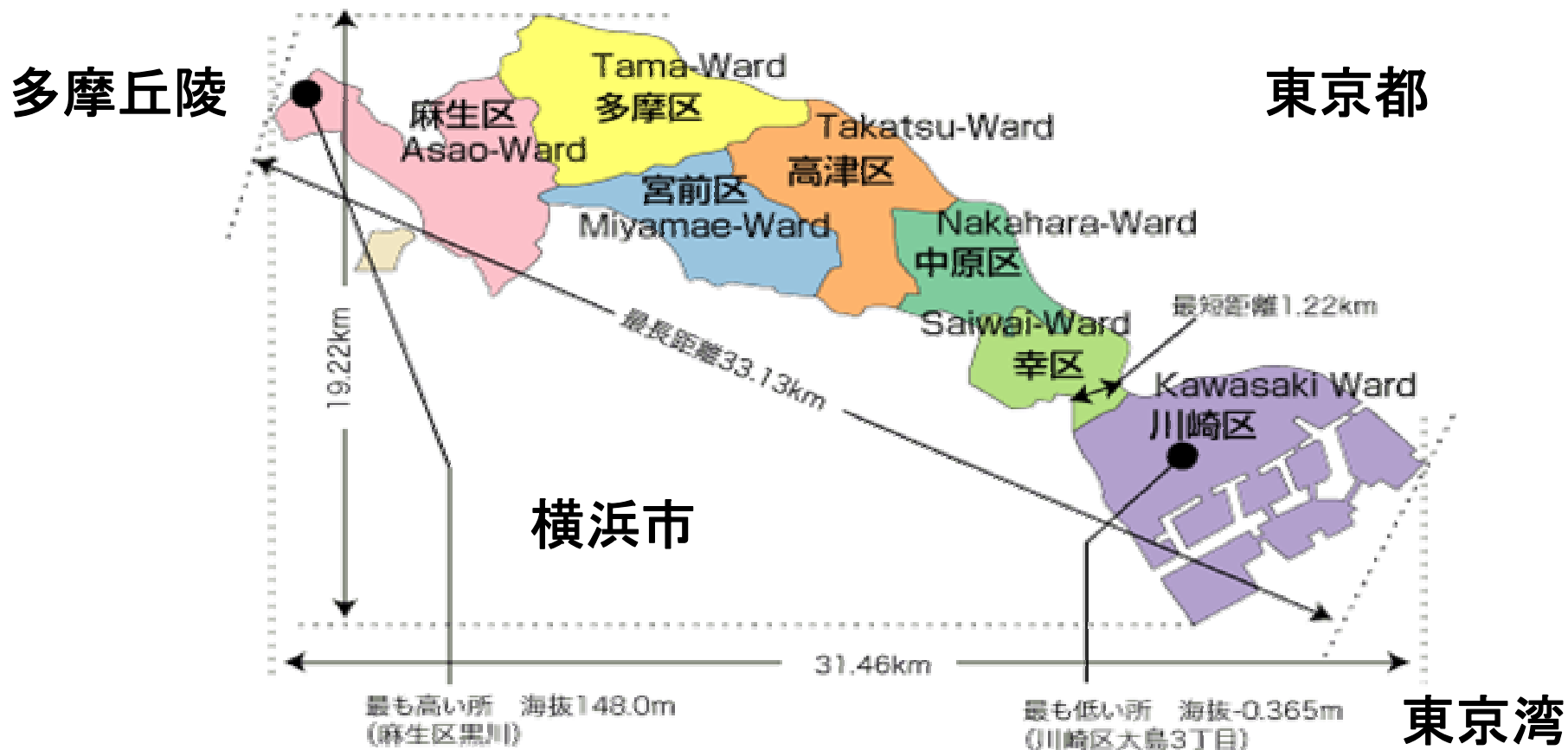
かわさきチャレンジ・3R

-地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指して-

川崎市環境局生活環境部廃棄物政策担当

主幹 横田 覚

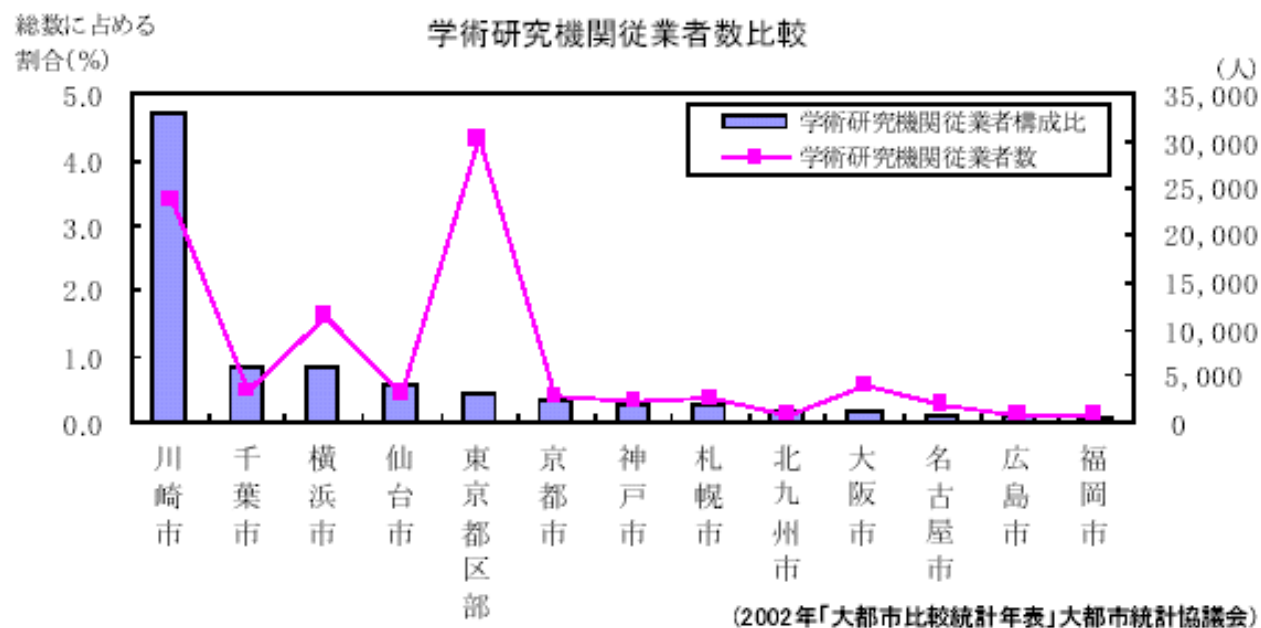
■ 川崎市の地形・位置



(出典:川崎市市勢要覧2007年版)

産業構造の転換と研究開発型産業の集積

- 川崎臨海部は京浜工業地帯の中核として日本の産業を牽引
- 産業構造の転換や経済活動のグローバル化による既存産業の空洞化
(川崎市のものづくり機能を支えてきた中小企業にとり厳しい環境)
- 情報通信分野などを中心に我が国を代表する先端技術産業が集積
- 研究開発機関が数多く市内に立地し、学術研究機関に働く人の割合は大都市の中で1位



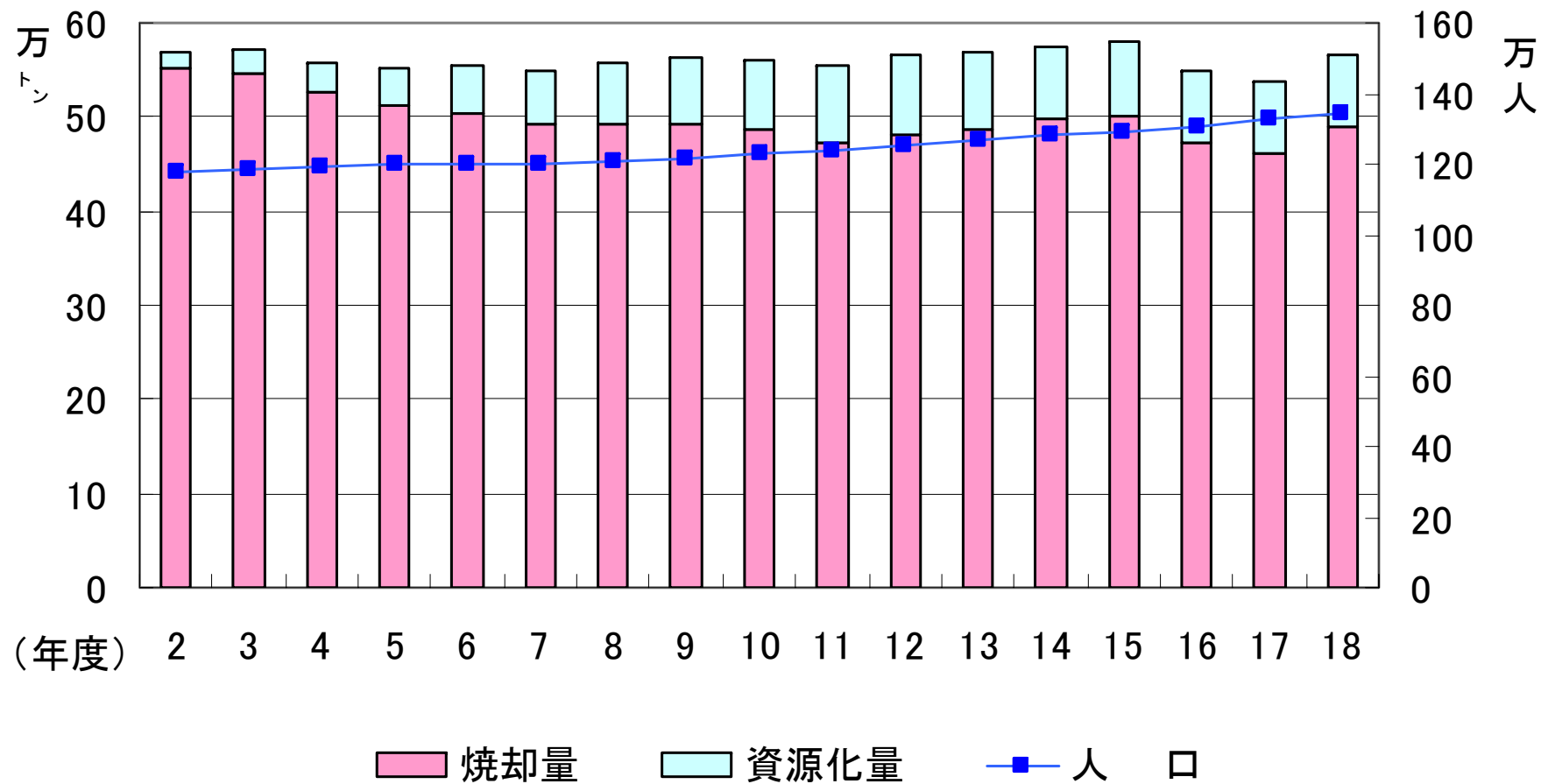
川崎臨海部を中心に、過去に経験した公害への対応の中で培った高い環境技術を活かした環境分野における新産業や、先端科学技術の研究開発拠点形成の動きも活発化




川崎市一般廃棄物処理の現状と課題

- 最後の埋立処分場
- 依然として高水準のごみ量
- 伸び悩む資源化量
- 多額のごみ処理費用

川崎市のごみの排出量に占める焼却量と資源化量の割合





川崎市一般廃棄物処理基本計画 —かわさきチャレンジ・3R—

○ 平成17年4月策定

○ 基本理念

地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指して

○ 基本方針

- ・限りなくごみをつくらない社会を創ること
- ・市民・事業者・行政が信頼し協力し合える関係を築くこと
- ・市民の健康的で快適な生活環境を守ること

計画の目標

○ ごみの発生抑制の推進

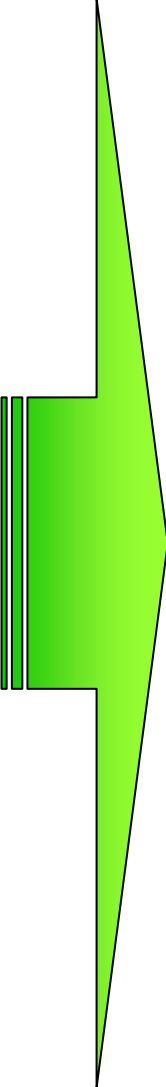
市民1人1日当たりのごみ量を180g減量

○ リサイクルの推進

市全体の資源化量を20万トン(資源化率35%)

○ 焼却量の削減

ごみ焼却量を13万トン削減(平成15年度比)



- 埋立処分場の延命化
- 3処理センター体制の実現



基本施策

- 循環型社会へのビジョンを共有し「環境市民」となる
環境学習・環境教育の促進、情報の共有化、市民参加の促進等

- 循環型の処理システムを築く
 - ごみをつくらない社会を創る
 - やむ得ず出たごみは可能な限り資源物とする
 - 資源にならないごみは適正に処理する

- 新たな視点と発想による施策展開

具体的施策その1

「環境学習・環境教育の促進」

- 廃棄物の減量・リサイクルを推進するためには市民の協力を得ることが必要不可欠

市民の環境意識の向上を図る目的で、市職員による出前講座を開催

概要

- 講座内容
 - ①出前ごみスクール：主に小学校向け
 - ②ふれあい出張講座：地域の集会・イベント向け
ゲーム形式によるごみの分け方、出し方の体験学習や、収集車を使った実演によるごみ収集作業の疑似体験を通し、ごみの減量・リサイクルに関する授業を実施
- 各地域のごみ収集を所管している生活環境事業所（生活環境推進担当職員）が対応（事業所によっては収集作業員がスタッフとして参加）
- H18年度実績
 - ①出前ごみスクール：54回（幼稚園、小学校、中学校で実施）
 - ②ふれあい出張講座：11回

具体的施策その1

「環境学習・環境教育の促進」



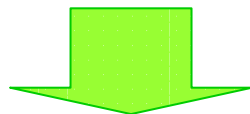
課題

- 小学生等を対象とした出前ごみスクールは好評を得ている一方で、ふれあい出張講座の浸透度は低く、地域への一層の働きかけが必要
- 出前講座の更なる実施に向けた体制の整備が必要

具体的施策 その2

「川崎市ごみ減量推進市民会議」

市民との協働によるごみ減量への取組を推進するためには、市民参加促進に向けた環境の整備が必要



概要

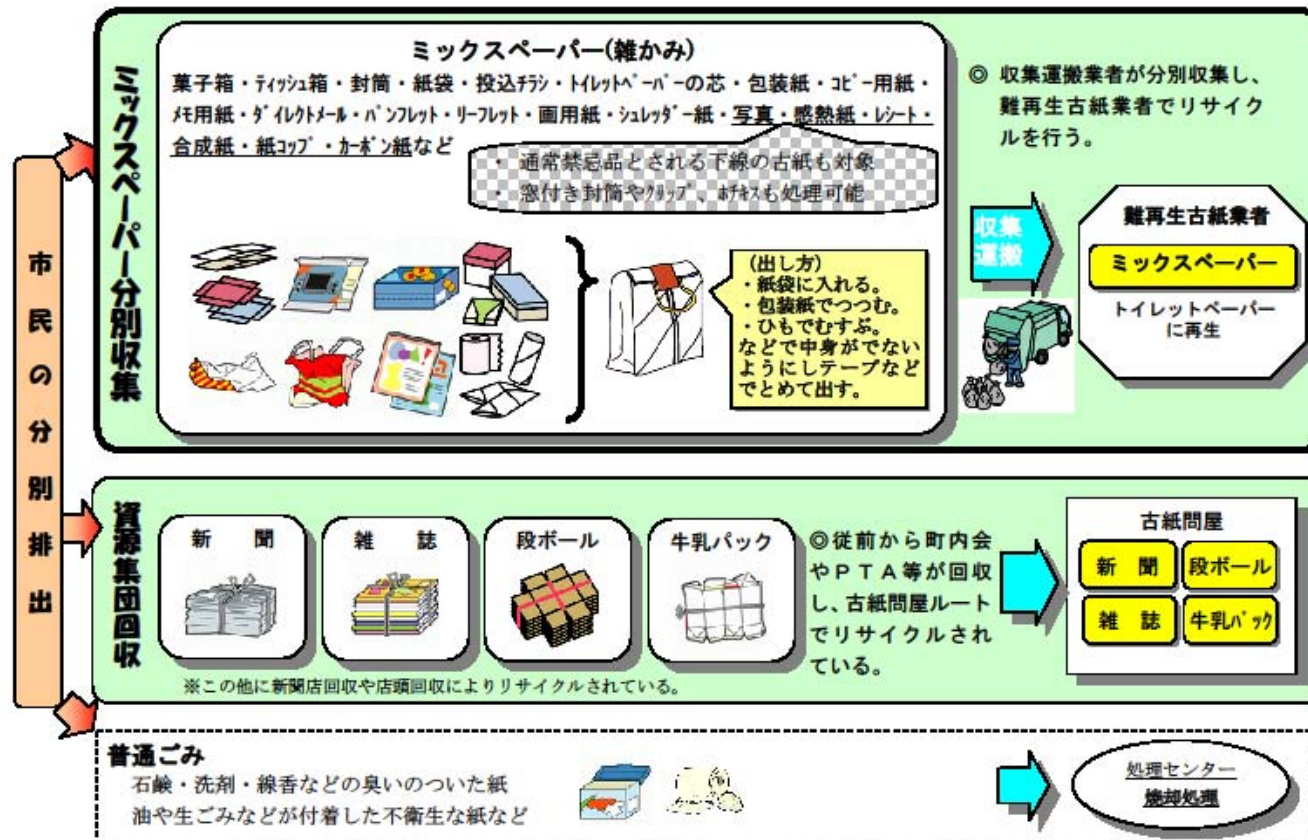
川崎市ごみ減量推進市民会議の設置

- 平成19年1月設置
 - 構成
市民(一般公募)、廃棄物減量指導員(地域のごみに関するボランティア・リーダー)、市民活動団体、事業者(スーパー等)、学識者、行政
 - 内容
 - 市民や地域自らがごみの減量に進んで協力・行動できる具体的な方策を検討
 - 机上の議論に留まらず、実践的な取組の実施に向けて検討
- 分科会方式で検討
- ①生ごみ:市民向けリサイクルハンドブックの作成
 - ②地域:地域のごみ減量・リサイクルの取組事例発表会の開催
 - ③事業者との連携:レジ袋削減に向けての取組

具体的施策その3

「ミックスペーパーの分別収集」

古紙・ミックスペーパーのリサイクルフローイメージ図



モデル収集

H18.11～ 4,200世帯

H19.4～ 15,200世帯

H20.4～ 90,000世帯

全市実施

H22年度中 60万世帯

○課題

- ・中間処理施設の整備
- ・普及広報

※環境事業団により形成されたエコタウン内にある処理業者で再生

具体的施策その4

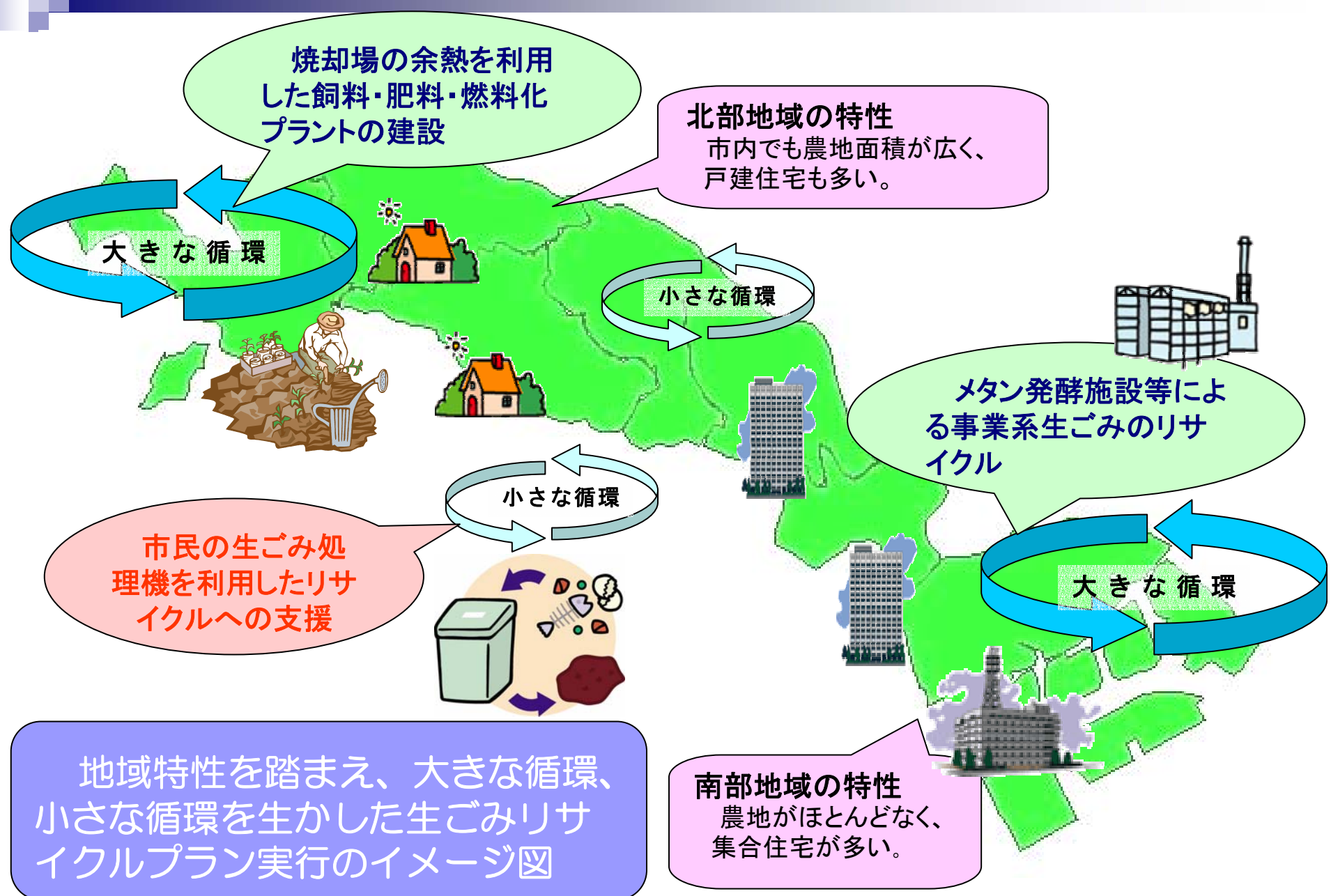
「かわさき生ごみリサイクルプラン」

- 当市の生ごみリサイクルを取り巻く課題
 - 市街化の進んだ都市におけるリサイクルシステムの構築
 - 川崎市の特性を踏まえた生ごみリサイクルの必要性 等

かわさき生ごみリサイクルプランの策定

概要

- 平成19年2月策定
- 基本理念: 持続可能な循環型の生ごみリサイクルシステムの構築を目指して
- 基本方針
 - 生ごみの発生・排出抑制を基本とすること
 - 地域の特性を活用した生ごみリサイクルシステムを構築すること(小さな循環、大きな循環)
 - 幅広い連携を図り、総合的に生ごみリサイクルを推進すること
- 目標: 1人1日あたり生ごみ量を100g減量(H27年度)

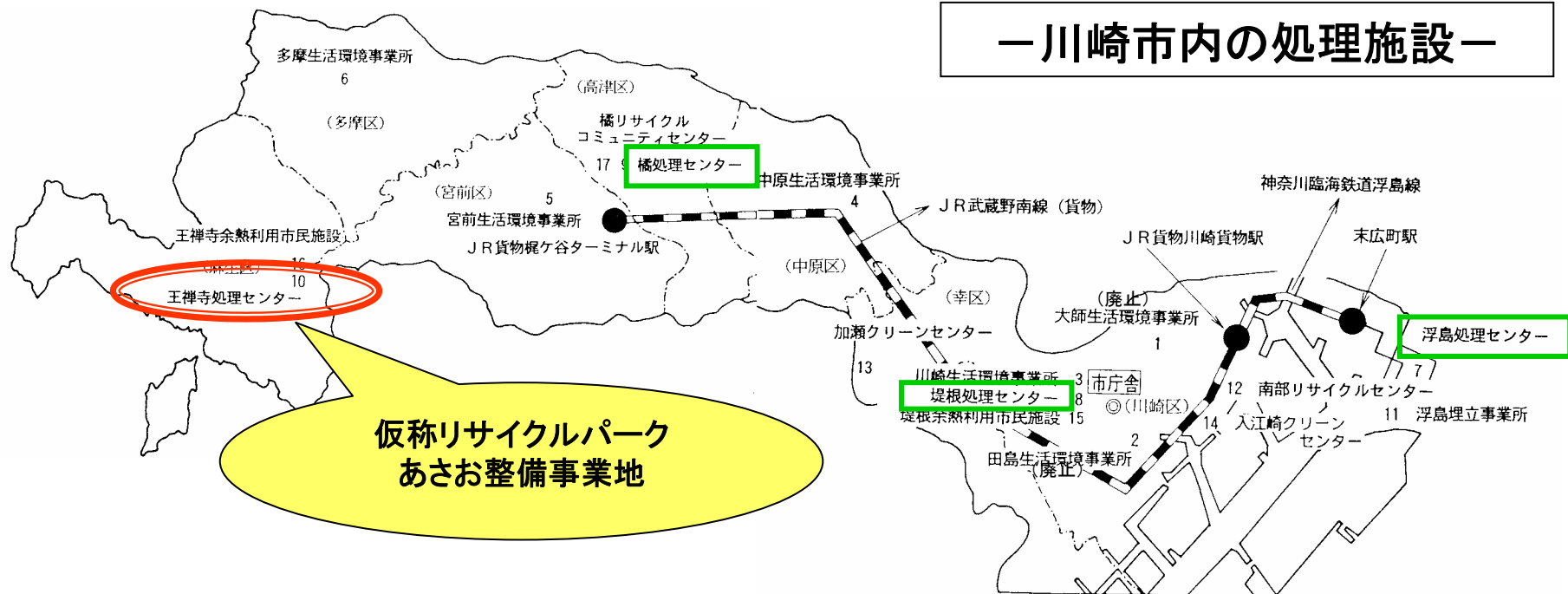


具体的施策その5

「ごみ処理施設の整備」

仮称リサイクルパークあさお整備事業

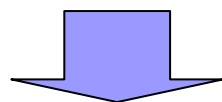
- 老朽化が進み、焼却能力の低下が見られる王禅寺処理センターの更新事業
- H19年2月に提出した循環型社会形成推進地域計画のもと、循環型社会にふさわしい総合的廃棄物処理施設として整備を計画
- 焼却処理施設：H23年度完成予定（処理能力：450t／日）
- 資源化処理施設：H26年度完成予定
- 循環型社会形成推進交付金を受け整備を行う





今後の展開

社会経済システムとライフスタイルの変革



循環型社会の形成・地球温暖化防止

- 意識から行動へ
- 地球温暖化防止対策との連携強化